

■ 中間考査に向けて



2学期が始まって早くも1か月以上たちました。2週間後の10月13日(火)から10月15日(木)まで中間考査が実施されます(※野球部の東北大会の日程が中間考査と重なっていることから、体育コース1・2年については10月12日(月)・13日(火)に変更になります)が、少しずつ準備を始めていますか? しっかりと計画を立てて準備し、受験するようにしましょう。

3年生はいよいよ総合型をはじめ、受験シーズンに突入しました。もうすでに合格が決まっている人もいますし、校内の推薦会議をクリアし、11月に実施される学校推薦型の指定校制で受験して、「あとは合格を待つだけ」などと安易な気持ちになってしまっている人もいるのかもしれませんが、例年、3年生で進学先が決まるとどうしても油断する傾向が見られますが、最後まで気持ちを締め、学力の向上を図ってほしいと思います。

1・2年生の諸君は、3年生になってから、慌てなくて済むよう、1回1回の考査を大切に、しっかりと準備して臨むよう心がけましょう。毎年のように、3年生になってから、「1・2年生の頃からしっかりやっておけば良かった」という後悔の弁を耳にすることがあります。そうならなくて済むよう、普段の授業を大切に、計画的に準備を進めてください。

■ 大学入試の動向



3年生は担任の先生から連絡を受けたかと思いますが、9月9日(水)付で文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室より、全国の国公立学長宛に出された「令和3年度大学入学者選抜におけるオンラインによる選抜実施について」とする文書が進路指導係にも届きました。内容としては、「例えば(オンラインによる)試験実施中に通信環境の不具合等が生じ試験の継続ができない場合や、入学志願者において通信環境を整えることができない場合等については、入学志願者と個別に連絡を取り、代替措置を講じるなど特段の配慮をお願いします。」とあります。あくまで例ですので、実際にはどのような対応になるかは、大学等によりさまざまかもしれませんが、「配慮の参考事例」として、「通信環境の不具合が生じ、試験続行が困難になった場合、当日の試験繰り下げや予備日を設けて選考を行う」、「入学志願者において通信環境を整えることができない場合、大学でのオンライン受験も可能とする」、「大学にサポートデスクなどの連絡窓口を設け、不測の事態に個別対応できるようにする」といったことが列挙されています。今後、各大学から連絡の通知が学校に送られてきたり、ホームページ上で発表されたりする可能性がありますので、入試動向には十分に注意しておきましょう。

9月16日(水)に今年度2回目の校内推薦会議が開かれ、指定校、公募、スポーツでの推薦受験希望者に対して、校長先生の承認が下りました。基本的に、今年度から推薦入試についても何らかの学力検査が行われることになりましたので、担任、教科担当、進路担当の各先生方に早めに相談し、準備を進めていきましょう。大学進学希望者のうち、9月16日(水)までの段階で、指定校推薦での希望者は34名、公募制推薦での希望者は延べ11名(1人で複数希望している場合あり)、スポーツ推薦での希望者は7名となっています。

総合型選抜の入試はすでに始まっていますが、やはり、学力を試されるケースで苦戦している話も耳にしています。数回にわたって、チャレンジできる学校については、失敗をよく反省し、同じことを繰り返さないようにすることが大切です。短期間に基礎学力を定着させることはなかなか難しいですが、あきらめずに最後まで努力を続けてください。

一般入試で志望校合格を目指す諸君はしっかりと計画的に学習を進め、11月、12月には追い込み、まとめに入れるようにがんばってください。少しずつ涼しくなってきましたので、体調管理には十分に気をつけましょう。学習が思うようにはかどらない場合には、気分転換を図り、上手な時間の使い方を心がけてほしいものです。

前号でもお伝えしましたが、入試内容・方法の変更に関する文書が多くの大学から届いています。ホームページの入試情報でも示されているでしょうから、各自、志望校の入試についてよく確認しておき、本番で実力を十分に発揮できるようにしてほしいものです。

■就職希望者に向けて

例年よりも1か月遅れの就職活動となりますが、いよいよ高校生の就職戦線もスタートします。10月5日(月)から受付が始まり、10月16日(金)に採用試験という企業が多いかと思えます(※志望企業の採用試験日および受付期間を求人票で確認しておきましょう)。出願にあたっては、①鑑(かがみ。学校側で用意する挨拶文。進路指導室で準備します)、②履歴書(専用の用紙があります。進路指導室に受け取りに来てください。最初に練習用で「平成」のみ記載のものを配付しています。本番用は「令和」が記載されているものになります)、③調査書(進路指導室にある申請書で進路指導担当者に申し込んでください)の3点を同封して送ることになります。簡易書留の速達で送ることになりますので、代金の方も準備していただくことになります。

例年、履歴書の「志望動機」の欄を自分の言葉で書けない生徒が多いですが、箇条書きで自分のセールスポイントや「なぜ、この企業を志望したのか」といったことを書き出し、最後にまとめて文章化すると良いでしょう。面接についても各先生方にしっかりと練習してもらおうようにしてください。やはり、「志望動機」、「高校生活(がんばったことや思い出等)」、「どのような社員を目指すか(将来の夢)」・・・といったことが質問の柱になると思います。その他、細かい質問にも答えられるよう、『進路活動の手引き』の質問事項を参考にしてノートにまとめ、回答できるように繰り返し読み返しておきましょう。



■現代文の入試予想？



国語科の茅根誠先生に確認したところ、最近の国語の教科書にも一部で掲載されているようですが、この夏に相次いで亡くなった外山滋比古さんと山崎正和さんの評論は多くの高校生に親しまれてきたことと思います。筆者にとっては、30年以上も前のことですから、教科書に掲載されていた文章の内容までは覚えていませんが、国語の先生が解説しやすい明快な論旨だったことは何となく頭の片隅に残っています。

この2人の文章は大学入試や模擬試験等でも取り上げられることが多かったように記憶していますが、論旨が明快で問題作成がしやすいのかもしれませんが、ただし、受験生にとっては難解な文章で(?)、「外山滋比古」や「山崎正和」という名前を見るだけで嫌だったという人も多かったものと思われます。

ちょうど、大学入学共通テストをはじめ、多くの大学で入試問題の作成が着々と進められていく時期かもしれませんが、ひょっとしたら、この冬の大学入試で外山滋比古さんや山崎正和さんの評論が出題される可能性があるかもしれません。3年生で一般受験を考えている人は、外山さんや山崎さんの思想、論調などについて、何らかの形であらかじめ確認しておいて損はないものと思われる。

筆者も受験生の頃は、現代文の問題でよく目にすることはあったものの、恥ずかしながら、外山さんや山崎さんの本をまともに読んだ記憶がありません。山崎さんについては、批評や評論が時折、新聞に掲載されていたため、そういったものにはよく目を通してはいましたが……。2人が亡くなった後、いわき市内の本屋さんでも、特別コーナーが設けられ、それぞれの著書が数種類、販売されていました。筆者もその中から気になった本を1冊ずつ購入しました。外山さんの著書からは『考える力』(海竜社)、山崎さんの著書からは『文明としての教育』(新潮新書)を選んでみました。それぞれ納得のいく論調で、しっかりと学ばせていただきました。

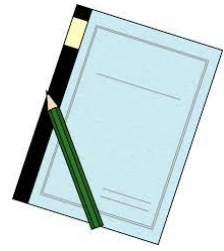
■調査書等の申請、余裕を持って！



今年度の3年生は、昨年度卒業生よりも50名以上多いためか、9月は総合型選抜での受験を希望していた生徒の調査書チェックにかなり時間がかかった印象でした。例年であれば、9月に就職試験も実施されるので、本来9月は忙しい時期なのですが、例年以上に時間が割かれている印象です。10月以降、入学試験、入社試験が多く実施されていくことと思います。出願締切ギリギリにならないよう、余裕を持って申請してください。集中する時期には、調査書の発行まで最低1週間にかかるものと思って、逆算のうえ、申請するようお願いいたします。その他、「推薦書」等、担任の先生に書いてもらう書類も早めをお願いするよう心がけてください。

先日、東日本国際大学・いわき短期大学の総合型選抜の出願書類を預かりましたが、コロナ禍でなかなか全体指導ができなかったこともあってか、不備がかなりありました。上記の大学・短大に限らず就職等も含めて、これから出願する人はそのようなことのないよう十分に注意してほしいと思います。

■ ある女子生徒の授業ノートから



筆者は、授業を担当しているクラスで、定期考査後にノート提出してもらおうようにしています。1学期に特進コースのあるクラスのノートチェックをしていて、非常に感心した1冊がありました。考査返却の際に、そのクラスの生徒たちには話をしたのですが、ある女子生徒のノートについて、板書事項がきれいに書き写されているだけでなく、筆者が授業中に話したポイントや、授業の本線からは脱線した事柄（※関連するだろうと思って話をしています）でも重要と感じたことはしっかりとメモされていて、よく話を聞いてくれている様子がうかがえました。中には板書事項を書き写すだけで精一杯という生徒もいるものと思われませんが、その女子生徒は、話の内容もよく整理してノートの端に欄を設けてメモしており、本当に感心しました。

これまで多くのノートをチェックしてきて、どちらかという、女子の方がノートの作り方において、さまざまな工夫が見られるように感じます。記憶に鮮明に残っているものとして、ある女子の卒業生（※前回、看護学校の話で取り上げた卒業生です）のノートが印象的です。授業内容で重要ポイントとなる事柄について、その卒業生が描いた筆者の似顔絵が指さして、「ここがポイント！」というふうにとまとめられており、定期考査前に学習する際、分かりやすいだろうと思われるノート作りをしていました。

明治大学教授の齋藤孝さんは、『仕事に使えるデカルト思考 - 「武器としての哲学」が身につく -』（PHP研究所）をはじめ、いくつかの著書の中で、「手書きでメモすることの有効性」を説いています。さらに、齋藤さんは、「人の話をメモを取りながら聞いている人は信頼が置ける」とも先の著書で記しています。近年はペーパーレス化が進み、企業等でも会議はタブレット端末を使用し、紙ベースではなくなっていることをよく耳にしますが、それでも、手書きする習慣は身につけておいた方が良いでしょう。齋藤さんは、「メモを取る際は、手帳やノートなどの紙にボールペンで書くのと、スマホのメモ機能などに打ち込むのと、どちらも活用するとよい」と先の著書に記していますが、筆者もそのような方法を取っています。ただし、併用することで、却って、どこにメモしたか管理できなくなるようでは話になりませんが・・・。

まずは、自分なりに工夫してノート作りをすることを習慣化してみたいと思います。授業中に板書事項をただ書き写すだけでなく、先生が重要だと指摘したり、自分で話を聞いて、「大切なポイントだ！」と感じたりしたときには、ノートの余白にメモしておくといいでしょう（ノートの端に線を引いて、メモを記入する欄を作るのもひとつの方法だと思います）。メモをする習慣をつけておくと、うっかり忘れるということも少なくなると思いますし、思わぬところで、そのメモが生きるということもあるかもしれません。少し大きいかもかもしれませんが、メモの習慣をつけることが、つまるところ、これから「生きていくうえでの大きな力」になる可能性が十分にあります。中間考査も近づいてきましたので、「どこにメモするか」を決めて、少しずつ意識的に取り組み、活用してみてください。

文責：清水聖（進路指導主事）